

## はじめに(自己紹介)

記事の内容に移る前に、簡単な自己紹介をさせていただきます。

初めまして。Univeristy of Wollongong Bachelor of Nutrition Scienceを2024年12月に卒業しました、渡邊圭竜と申します。

卒業するまでの流れとしては、日本の高等学校を卒業後、IELTSを取得するために8ヶ月ほど英語の学習をして、同大学のFoundation Courseをオンラインで受講・卒業、そのままUOWIに入学し3年間の専攻を修了し、今に至ります。

この記事では、僕が3年間で行ってきた大学での学習計画方法・進め方・求められる英語のレベル感、日本企業に対しての就活の流れ・対策方法などをまとめていきます。

これからオーストラリアへの留学を考えていて

- 大学の授業についていけるか不安
- 留学前にどこまで英語力を高めたらいいのか
- 留学先での就職活動がイメージできないなど

少しでもこのように感じている方々のご参考になれば嬉しいです。

## 大学での学習について

まず始めに、大学での学習について内容(Nutrition Science)・計画方法・進め方や求められる英語のレベル感についてまとめていきます。

### 大学の講義内容について(**Bachelor of Nutrition Science**)

内容に入る前に、僕が今回の記事で話させていただくのは、あくまで専攻していたBachelor of Nutrition Scienceの内容になりますので、その点はご了承ください。

1年次の内容については以前の記事でお話しさせていただいたので、今回は2年次の内容からまとめいきます。

2年次の課題は、全般的にクイズや個人の課題が多かった印象です。内容としては、統計学・生化学・公衆衛生学など。科目によっては、全体の成績がボーダーラインに達していたとしても、それぞれのクイズの成績がボーダーを下回っていたら落単というのもありました。そういった各科目ごとのMinimum RequirementはSubject Handbookに記載してあったので、毎回必ず確認するようにしていました。

一方で、3年次はかなりグループワークが多かった印象です。それぞれの科目で総合的な知識やスキルが求められました。1・2年次に学習した内容は前提知識として、より実践的な場面でそれらの知識をどのように活用するのかを考える課題がかなり多かったです。

また、グループワークの難しい側面でもありますが、チームメンバーが締切日までにタスクをクリアしていなかったり、メッセージ上では終わっていると言っていたとしても、実際には何も手をつけていなかったりなど、色々な困難はありました。

しかし、このようなマイナス面だけではなく、ネイティブの学生との意見交換やディスカッションでは、自分からは思い付かないようなアイデアが生まれたり、新たな気づきが創出されるので、そういったことはグループワークでしか得られない経験だと同時に感じました。

また、3年次は、1・2年次と違って必修科目以外にも選択科目を履修でき、自分が興味ある科目を取ってさらに知見を広げることができます。僕は、ビジネス系の科目と科学系の科目を履修していました。

コースによって講義内容はかなり異なってきますが、周りの友人の話からも3年次は実践的な内容の課題を課されることが多いみたいです。そのため、1・2年次でしっかりと知識の地盤を固めることが求められます。

### 学習の計画方法について

ここからは、僕が実際に行っていた学習計画の立て方についてご紹介します。

僕が専攻していたコースは、2学期制でAutumn SessionとSpring Sessionの2つがありました。期間としては、最終試験のStudy Weekも含めると各Sessionで約3ヶ月間です。

各Sessionごとに4科目の履修登録をする必要があり、講義 (Lecture)・演習 (Tutorial)・実験 (Laboratory)等で構成されています。科目登録が完了した後、Moodleという大学独自のサイトがあるので、そこで各科目のSubject Handbookを確認でき、これには講義の内容・課題の提出日・Minimum Requirementなど、その科目に関する全ての情報が掲載されています。

実際に僕が行った学習計画としては、そのSubject Handbookを見ながら全ての講義・演習・実験の日付、課題の締切日をカレンダーに登録するというものです。

実際に当時登録していたカレンダー↓

月	火	水	木	金	土	日
31	8月 1日	2	3	4	5	6
<b>Week 2</b>						
	● 午後12:30 MEDI212 Lecture	● MEDI212 5 BIOL214 Lab Safe	● 午前9:30 STAT251 Computer L	● 午後1:30 BIOL214 Lecture		
● BIOL214 Pre-lab Quiz		● 午前9:30 BIOL214 Practical	● 午後12:30 BIOL214 Lecture	● 午後2:30 BIOL214 Tutorial		
● 午前10:30 MEDI251 Lecture		● 午後1時 Meeting	● 午後3:30 MEDI251 Practical			
● 午後1:30 STAT251 Lecture		● 午後1:30 STAT251 Lecture				
		● 午後3:30 MEDI212 Practical				
7	8	9	10	11	12	13
<b>Week 3</b>						
● BIOL214 Post-lab Quiz	● 午前1時 BIOL214 Lecture Notes	● BIOL214 Annotated Bibliography	● 午前9:30 STAT251 Computer L	● 午前1時 MEDI212 Revision		
● STAT251 Lab Quiz	● 午前1時 STAT251 Assessment1		● 午後12:30 BIOL214 Lecture	● 午後1:30 BIOL214 Lecture		
● 午前1時 MEDI251 Practice Quiz	● 午後12:30 MEDI212 Lecture	● 午前1時 STAT251 Lecture Note	● 午後3:30 MEDI251 Practical	● 午後2:30 BIOL214 Tutorial		
● 午前10:30 MEDI251 Lecture		● 午後1:30 STAT251 Lecture				
● 午後1:30 STAT251 Lecture		● 午後3:30 MEDI212 Practical				
14	15	16	17	18	19	20
<b>Week 4</b>						
● BIOL214 Pre-lab Quiz	● MEDI212 Quiz1	● Submit STAT251 Assessment1	● 午前9:30 STAT251 Computer L	● BIOL214 Annotated Bibliography		● STAT251 Lab Quiz
● STAT251 Lab Quiz	● 午前12:38 MEDI212 Lecture Not	● 午前9:30 BIOL214 Practical	● 午後12:30 BIOL214 Lecture	● MEDI251 MCO Test		
● 午前10:30 MEDI251 Lecture	● 午前12:38 MEDI212 Pre-lab	● 午後1:30 STAT251 Lecture	● 午後3:30 MEDI251 Practical	● STAT251 Assessment1		
● 午後1:30 STAT251 Lecture	● 午前12:38 MEDI251 Activ Epi	● 午後3:30 MEDI212 Practical	● 午後11:30 BIOL214 Lecture Notes			
	他 2 件		他 2 件	他 7 件		
21	22	23	24	25	26	27
<b>Week 5</b>						
● BIOL214 Post-lab Quiz	● 午後12:30 MEDI212 Lecture	● 午後1:30 STAT251 Lecture	● 午前9:30 STAT251 Computer L	● 午後1:30 BIOL214 Lecture		
● STAT251 Lab Quiz		● 午後3:30 MEDI212 Practical	● 午後12:30 BIOL214 Lecture	● 午後2:30 BIOL214 Tutorial	● 午前1時 BIOL214 Pre LAB	● STAT251 Lab Quiz
● 午前10:30 MEDI251 Lecture			● 午後3:30 MEDI251 Practical		● 午前1時 MEDI212 Review for Qu	
● 午後1:30 STAT251 Lecture					● 午前1時 STAT251 Lab Quiz	
28	29	30	31	9月 1日	2	3
<b>Week 6</b>						
● BIOL214 Pre-lab Quiz	● MEDI212 Quiz2	● 午前9:30 BIOL214 Practical	● 午前9:30 STAT251 Computer L	● BIOL214 In-session Quiz	● BIOL214 Post-Quiz	
● STAT251 Lab Quiz	● 午後12:30 MEDI212 Lecture	● 午後1:30 STAT251 Lecture	● 午後12:30 BIOL214 Lecture	● 午後1:30 BIOL214 Lecture	● STAT LAB Quiz	
● 午前1時 page			● 午後3:30 MEDI251 Practical	● 午後2:30 BIOL214 Tutorial		
● 午前10:30 MEDI251 Lecture						
● 午後1:30 STAT251 Lecture						

あくまで、上記のカレンダーには講義・演習・実験の日程と課題の提出日・試験日のみが登録されています。科目ごとの詳細な学習タスクについては、別途管理していました。

また、各科目の学習方法についてですが、僕は基本的に『Notion』というアプリを使用してノートをとっていました。大学に入学した始めの頃は、手書きかGoodnotesで講義の内容をまとめていたのですが、一度の講義で学習する内容の量が多すぎたため(1講義100スライドの時も)タイピングか音声入力でノートをとるようにしました。

そうした結果、出先でも講義の復習や予習ができるようになり、効率的に取り組めるようになりました。講義内容は外部に掲載できないので、ノートの内容をお見せすることはできませんが、僕がノートをとる際に意識していたことを以下にまとめておきます。

1. 使用する配色は固定かつ少なめ:3-4色がベスト
2. 参考文献は関連するノートのページ内に掲載する
3. 疑問点・不明点は随時追加し、講義終了後に質問しに行く
4. 各項目に復習した日付を記しておく
5. 学習タスクを毎週ごとに設定して振り返りをするなど

カレンダーからも分かる通り、毎週のように課題や試験があるので、先を見据えた学習が必要になります。基本的に、僕は各課題の締切日の3週間前ほどから計画を立てるようにしていました。課題だけでなく、講義ごとに読まなければいけない論文や予習・復習もあるので、いかにそれらを効率的に進めるかが大変でした。

上記のように、過密かつストレスのかかる環境なこともあり、落単・留年する人も珍しくなく、中には中退していく人もいました。どうしてもこれだけ聞くとかなり厳しいように感じるかもしれませんが、計画的に学習を進めて、課題の評価ポイントを抑えて取り組めば、必ず単位をとることができるので、地道に積み重ねていくことが大切です。

また、大学での学習に取り組む上で、もう1つ大切なことがあります。それは、講義内容・課題に関して不明な点があった場合は、すぐ教授に面談かメールで質問することです。

こちらの大学は基本的に放任主義なので、何もアクションを起こさなければそのまま進んでいきますし、逆に質問をしようとする生徒に対しては親身になって教えてくれます。そのため、分からないことをそのままにせず、しっかりと1つ1つ身につけてから次の学習にうつることが大切です。

#### 大学で求められる英語のレベル感

冒頭でもお話しさせていただきましたが、僕は同大学のFoundation Courseへ入学するためにIELTSの試験を受ける必要があり、英語の学習を独学で行っていました。これからIELTSの対策をする中で伸ばした英語力が実際に大学の学習でどこまで通用したのか、時系列順にお話ししていきます。

まず始めに、英語力の指標として僕のIELTSのスコアですが、留学前の段階でListening 5.5・Reading 5.0・Writing 5.5・Speaking 5.5・Overall 5.5でした。Foundation Courseの入学条件としてOverall 5.5が求められていたため、スコアとしてはギリギリでした。

そして、当時コロナだったこともあり、オンラインでコースが開始されました。初めて英語のみの講義を受けてみて感じたのが、リスニング力が圧倒的に足りていないということ。Foundation

Courseでは、基本的にネイティブの人よりも主に各国の留学生が参加しているので、比較的聞き取りやすいように話してくれていたと思うのですが、それでも個人的には早く感じました。そのため、講義の内容が聞き取れず話に置いていかれることもよくあり、周りの生徒さんよりも何倍も努力する必要がありました。

IELTSの対策の中で得た英語力が活かした場面も何度かあり、全く通用しないということは決してなかったです。しかし、基本的に実践の中で磨いていくスタンスでないとコースについていけないと感じました。

次に、大学で求められる英語力について。全般的に言えるのが、Foundation Courseとは全く英語力のレベル感が違うということです。当たり前ですが、大学に入学した時点でネイティブの学生と同じ内容の講義を同じ速度で受けることになるので、求められる英語力が総合的に一気に上がった印象でした。

Foundation Courseと同じで、リスニング・リーディング力が必要なことはもちろん、ネイティブの学生とディスカッションや意見交換をするためのスピーキング力、学術的な英文を執筆するためのライティング力も重要になります。

根性論になってしまいますが、これらの英語力を向上させるためには、正直回数をこなすしかないです。日頃からどのような英語のフレーズが使われているのか、学術的な英文はどのように構成されているのか、常に意識して生活すると自ずと英語力は向上します。

僕自身、元々英語が得意ではなかったのですが、手探りな部分も多くありましたが、少しずつ積み重ねていけば必ず単位は取れるので、これから留学を考えている方々もきっと大丈夫です。

在学中のメンタルを維持する方法

留学生活は楽しいこともあります。ここまでお話ししてきた通り、基本的に大学がある期間は大変なことの連続です。

周りの生徒の中には、メンタルを崩して落単・中退する人もいます。そういったことを防ぐために、ここでは僕が実際に行っていたメンタルを維持する方法をいくつかご紹介します。

主に僕が行っていた方法は以下の5つです。

1. ジムに通って運動する
2. 読書をする
3. ジャーナリングを行う
4. 留学を決めるきっかけとなったものを見返す
5. 週ごと自分に何かしらのご褒美を与える

この5つです。それぞれ簡単にまとめていきます。

1. ジムに通って運動する

個人的に最も効果的だったのが運動することです。大学がある期間は、講義の内容が理解できなくて行き詰まったり、課題が多過ぎてキャパオーバーになったりすることが多々あります。

そんな中、ジムに行って運動するとそういった気分を一気にリフレッシュできるので、個人的にかなりオススメです。加えて、運動した後に課題に再度取り組んでみると、意外とすぐ問題が解決することもあったりします。

## 2. 読書をする

次に、読書について。主な目的としては、課題やタスクのせいで目の前に集中し過ぎて行き詰まってしまっている脳内の視点を、一旦書籍の内容にうつしてリセットするためです。

大学で履修する内容の中には、いくら調べても理解できないものもいくつかあります。そういったものに遭遇した時に、ずっとそれについて考えていてもキリがないので、視点をリセットするためによく読書をしていました。

また、読書をすると書籍で得た知識を意外な場面で応用できたりするので、特定のジャンルにこだわらずに様々なものを読んでみると良いかもしれません。

## 3. ジャーナリングを行う

次は、ジャーナリングについて。ジャーナリングというのは、自分の頭に浮かんだ考えや感情を、形式・表現にこだわらずにそのまま書いていく行為のことです。

メンタルが不安定な時、1人で色々と考えを巡らせていてもネガティブな方向にいくだけなので、自分の思考や状況を俯瞰的に観察する手段として、このジャーナリングが有効です。

悩んでいること、心配なこと、行き詰まっていること、思いつく限りのこと全てをジャーナリングで書き出してみてください。そうすると思考の整理ができ、メンタルも安定させることができると思います。

## 4. 留学を決めるきっかけとなったものを見返す

この方法はメンタルを安定させるというよりかは、モチベーションを高めるために行っていました。というのも、留学をしていると様々な状況が重なって、当時思い描いていた海外での自分が目指す姿を見失ってしまったり、分からなくなってしまうことがたまにあります。

そんな時、モヤモヤした気持ちを抱えながら大学の講義や課題に取り組んでも、十分なパフォーマンスを発揮できずに悪循環に陥ってしまいます。しかし、そういった時にこそ自分が留学を目指す原点に立ち返ってみることで、方向性を再認識することができ、結果的に学業へのモチベーションを向上させることができました。

なので、もし留学先で「自分って何で留学に来たんだろう」と疑問を抱えた時は、原点に立ち返って自分が留学で達成したいこと・叶えたいことを再度見直すことも大切かなと思います。

## 5. 週ごと自分に何かしらのご褒美を与える

最後に、週ごと自分に何かしらのご褒美を与えることについて。ここで指すご褒美というのは、何か高価なものを購入したり、旅行で散財したりといったことではありません。

本当に些細なことで良いです。例えば、毎週金曜日はケーキを買ってみるだとか、週末は少し晩酌をするだとか、普段の生活よりも少しだけ特別なことを毎週用意しておくことで、そのために1週間頑張ろうと思えます。

この方法もメンタルを安定させるというよりモチベーション向上のための方法ですが、こういった些細なご褒美があるだけで学業への意欲が高まるので、自分なりのご褒美を設けて試してみてください。

これまで、僕なりのメンタルを維持するための5つの方法についてお話しさせていただきました。今回ご紹介した方法以外にも、今後留学される方々それぞれに合った方法を見つけていただけたら幸いです。

## 就職活動について:日本の企業へ就職を考えている場合

さて、ここまで学業面のお話しをしてきました。この先は、僕が在学中に行っていた就職活動についてまとめていきます。前提として、今回は日本企業に対しての就職活動についての内容になりますのでご了承ください。

### 就職活動の準備と流れ

僕の就活の開始時期としては、2年次の5月頃だったと思います。その辺りから、自己分析・業界調べ・企業の説明会などのチェックをし始めました。そして、3年次の4月頃に内々定をいただくことができました。

就職活動の流れとしては、日本の大学生とあまり大きな違いはないかと思われま

す。以下に大まかな流れをまとめてみました。

1. インターンシップに参加
2. 自己分析・業界研究・Webテスト対策
3. 企業エントリー・説明会参加
4. エントリーシートの提出
5. 面接
6. 内定

留学生も基本的にこの流れに沿って就職活動をしていくのですが、日本の大学生と使用するツールや参加できるイベントが色々と異なってくるので、流れに沿ってお話ししていきます。

まず初めに、インターンシップについてです。前提として、留学生は基本的に対面のインターンシップに参加できる機会は極端に少ないです。僕自身、参加した日本企業のインターンシップはオンライン開催のものがほとんどでした。

仮に対面のインターンシップに参加するにしても、夏季休暇中の一時帰国の際にタイミングが合う企業のものだけに参加するくらいでした。なので、もし行きたい企業が対面のインターンシップの参加が必須となっていたら、就職するのは現実的に難しいです。

しかし、僕が就活をしている中で、インターンシップの参加が必須という企業はほとんどなかったもので、そこまで心配しすぎる必要はないと思います。

インターンシップの応募条件には色々ありますが、書類選考のものが多かった印象です。企業によっては面接・Webテストが必要なので、各企業の公式サイトをご確認ください。

次に、自己分析・業界研究・Webテスト対策について。

自己分析というと、MBTI診断や16personalitiesなどが有名ですが、僕はそれらのツールを使用するのではなく、留学している間に経験した出来事・困難と対処や価値観の変化などを自己分析の素材として定期的書き留めるようにしていました。(ジャーナリングもその1つ)

3年間の留学生活を通して、英語力が向上したのはもちろんですが、それらを面接でアピールするよりも、留学生活で得た経験や出来事が今の自分の価値観や考え方にどのような影響をもたらしたのかを深掘りすることで、面接で予想していない質問がきても対応することができました。

なので、日本の大学生が一般的に使用しているツールを活用するのではなく、留学という唯一無二の経験を深掘りするのが、他の学生と差をつけることのできる自己分析ではないかと個人的に思います。

業界研究ですが、今ではYouTubeに様々な業界を解説した動画が多くあるので、主にそれらを見て理解を深めていました。最初から特定の業界に絞り込み過ぎずに、幅広い業界を見ることが大切です。

そこでもし興味のある業界が分からなければ、将来自分が選択肢を広げられるような業界を選ぶことが良いかなと思います。自分がその業界に就職してどのようなスキルが手に入るのか、そして、今後社会で求められるスキルは何かというのを比べながら絞り込んでみてください。

Webテスト対策ですが、基本的に参考書を購入してどのような問題が出るのか確認して、不安な問題のみを練習するようにしていました。正直、大学の授業がある中、それらの問題を全て解いて対策する余裕などなかったので、キーポイントとウィークポイントをとにかく効率的に抑えるように意識していました。

次に、企業エントリー・説明会の参加について。以下に、僕が選考に応募する企業を見つけるために使用していたサイトをまとめていきます。

マイナビ国際派就職: <https://global.mynavi.jp/>

留学生向けの就職対策を手広く行っています。年に一度、現地面接・内定獲得できるシドニーで留学生向けのキャリアフォーラムを開催しています。LINEを使用した無料就職相談も可能で、オンライン選考の情報なども提供してくれます。

Career Forum Net: <https://careerforum.net/ja/>

こちらのサイトも同様に、バイリンガルの学生を積極採用している企業の情報を見つけることができます。有名なイベントだと、ボストンキャリアフォーラムや東京キャリアフォーラムなどです。サイト内で扱っている企業の幅も広く、サイトを介しての応募が可能になっています。応募するために日本語と英語両方のエントリーシートを記入する必要がありますが、手順に沿って行えば大丈夫です。

Offer Box: <https://offerbox.jp/offerlp02?aid=2059>

日本の企業からの逆オファーを受け取ることのできるサイトです。このサイトでは、就活生が自己紹介用のプロフィールに必要事項を記入して、それを見た採用担当者から説明会の勧誘や面接の案内等が送られてくるという仕組みになっています。プロフィールを作成していく中で自己分析や履歴書の練習にもなるのでおすすめです。

One Career: <https://www.onecareer.jp/>

幅広く日本国内の企業のエントリー日程・説明会情報を確認するならこのサイトです。企業ごとの選考に関する体験談や対策内容なども掲載しており、就活の対策をする上ではとても参考になります。Offerboxと同様に、逆オファーも受け取ることができるので、プロフィールをいかに魅力的に魅せるかが勝負です。

応募する企業を探すためのサイトは以上となります。次は、エントリーシートについてお話していきます。

上記のサイトで応募したい企業があった場合、それぞれエントリーシートを提出して書類選考を受ける必要があります。

各企業で質問内容は異なるので、一概には言えませんが基本的にガクチカや志望動機などが主に質問されます。添削方法としては、先ほどのマイナビ国際派就職に添削してもらうか、自分で推敲するか、もしくはAIに聞いてみるかなど様々な方法があります。

YouTube等にもエントリーシートのコツを解説した動画があるので、自分に合う方法でエントリーシートをご記入いただければと思います。

次に、面接について。

僕が行った面接対策としては、自己紹介・ガクチカ・志望動機などの一般的な質問は前もって話す内容を考えておき、それ以外は基本的に面接官の方の質問の流れで適宜回答を考えながら話していました。

なぜ全ての質問を想定して準備しなかったかというと、先ほどの自己分析で留学経験を経て変わった価値観や考え方、自分の意思で取り組んだことの深掘りがしっかりとしていれば、前もって用意していた質問以外のものがきても対応できると考えていたからです。

加えて、あまりにも想定される質問の暗記を徹底しすぎると、想定外のものが来た時にその場で考える力が失われてしまう気がしたからです。そのため、質問を想定して回答を考えるにしても、1から全てを考えるのではなく、話すのに必要なキーワードをいくつか考えておく程度に留めておき、あとは考えながら回答するスタンスを取っていました。

特にこれから留学される方々は、日本の大学生の方とは一線を画した唯一無二の経験をしていくはずですが、それらの経験を、一言一句全て暗記して機械のようにそのまま伝えるのではなく、本当に心から感じたこと・考えたことが自然と溢れるように自分の言葉で話すことで、面接官に対しても魅力的に映るはずですが、そのためにも、日々のジャーナリングを欠かさずに行ってほしいなと。

留学で得るのは何も英語力の向上だけではありません。それ以上に、大きく自分の中で変化するものがあります。なので、それらを全て面接官にぶつけるくらいの気持ちで回答すればきっと面接本番も上手くいきます。

ここまで、留学生の就活の流れについてお話しさせていただきましたが、対策方法としては日本の大学生と大きな違いはないです。しかし、インターンシップやキャリア支援の面ではどうしても独力が試されます。特に、留学生は海外大学のカリキュラムをこなしながら、就活を並行して進めなければならないので本当に大変です。でもその分、かけがえの無い経験になると思うので頑張ってください。応援しています。

これから留学する方・決断を迷っている方へ

それでは最後に、これから留学される方・留学の決断を迷っている方に向けて、これまでの僕の経験を踏まえて色々とお伝えさせていただきます。

まず始めに、これから留学される方々へ。僕自身、留学準備期間を含めた5年間は本当に大変でした。手続きは山のようにあるし、英語力が足りなくて授業についていけないし、と何度も諦めかけたことがありました。

留学を選択して悩んだこと・苦しかったことなど、挙げればキリがないですが、留学という選択を後悔したことは一度もありません。全て自分でなんとかしないといけない、行動を起こさないとすぐに置いてかれてしまう、そんな状況に早いうちから身を置くことができ本当に良かったと思っています。

この留学した数年間、必ずこれから留学される方々の人生の糧になるので、思いっきり色々なことに触れて、勉強して、経験を積み重ねてきてください。もし、留學生活の中でしんどいこと・悩みなどあれば、僕であればいつでもご相談に乗ります。

留学の決断を迷っている方へ。留学を迷われる方々の中には、様々な心配があると思います。金銭面・生活面・安全面・学業面など...

僕も留学をする前は海外に一度も行ったことがなく、何なら初めての一人暮らしはオーストラリアに来てからでした。しかし、手探りでも1つずつ自分なりの方法を見つけていけばきっと大丈夫です。

金銭面は奨学金制度もありますし、生活面は現地の安いスーパーやセールを狙って買えば良いですし、治安面は日本とまではいなくてもそれに近いくらい良いです。

現地に行かないと分からない部分も多くありますが、留学に対しての不安感を払拭するためにも今のうちから経験者の方に話を聞いたり、ネットで調べたりすることで留学を決断するための後押しとなるはずですよ。

最後に

ここまで記事を読んで下さりありがとうございました。僕なりに経験談を綴らせていただきましたが、いかがでしたでしょうか。

これから留学される方・留学を迷われている方など、様々な状況の方々がいらっしゃると思いますが、ICNさんのサポート体制もとても充実していますし、現地でも助けてくれる方々は大勢います。

大きな決断であることに変わりありませんが、この記事を読んでもらった方々が後悔の無い選択ができることを心から願っております。